

Veritas System Recovery 16 Readme

- [この README について](#)
- [Veritas System Recovery 16 使用時のヘルプの参照](#)
- [Veritas System Recovery 16 の新機能](#)
- [Veritas System Recovery 16 でサポートされなくなった機能](#)
- [システムの必要条件](#)
- [インストール](#)
- [アップグレード](#)
- [アンインストール](#)
- [バックアップ先とオフサイトコピー](#)
- [Veritas System Recovery Disk](#)
- [LightsOut Restore](#)
- [Active Directory のサポート](#)
- [リモート管理](#)
- [Restore Anyware](#)
- [既知の問題](#)
- [Granular Restore Option](#)
- [法的通知と登録商標](#)

この README について

[^先頭へ戻る](#)

Veritas™ System Recovery 16 をインストールおよびご利用になる前に、このセクションに記載されている内容をよくお読みください。このマニュアルには、[新機能](#)、[システム必要条件](#)、[サポートが終了した機能](#)、[インストール](#)、[アンインストール](#)、[既存の機能](#)、[既知の問題](#)、[制限事項](#)についての重要な情報が記載されています。

Veritas System Recovery 16 使用時のヘルプの参照

[^先頭へ戻る](#)

Veritas System Recovery 16 について詳しくは、[ヘルプとサポート] ページを参照してください。インストールした製品のバージョンと言語に応じて、[ヘルプとサポート] ページから詳しい情報、製品のヘルプ、ユーザーズガイドにアクセスできます。[ヘルプとサポート] ページから Veritas 社のナレッジベースにアクセスし、そこでトラブルシューティング情報を見つけることもできます。

[ヘルプとサポート] へのアクセス方法

1. Veritas System Recovery 16 を起動します。
2. [ホーム] ページで、[ヘルプ]、[ヘルプとサポート] の順にクリックします。

Veritas System Recovery 16 の新機能

[^先頭へ戻る](#)

Veritas System Recovery 16 には、数多くの拡張機能と新機能が含まれています。最新の機能と拡張機能について詳しくは、次の表を参照してください。

メモ: リストのすべての機能が、この製品のすべてのバージョンで使用できるわけではありません。

表: Veritas System Recovery 16 の新機能

機能	説明
Microsoft Surface Pro 4 のサポート	Veritas System Recovery 16 は、Microsoft Surface Pro 4 でサポートされるようになりました。Microsoft Surface Pro 4 では、Veritas System Recovery のすべての機能を使うことができます。 メモ: Microsoft Surface Pro 4 は、Windows 10 64 ビットのオペレーティングシステムのみをサポートします。
32 TB のボリュームのサポート	64 ビットのオペレーティングシステム環境でのみ、Veritas System Recovery 16 を使用して、最大で 32 TB のボリュームのバックアップと復元を行えます。 メモ: 16 TB を超えるボリュームのバックアップまたは復元は、8 GB 以上の RAM がある環境で実行することを推奨します。
Symantec System Recovery から Veritas System Recovery に変更	Symantec System Recovery は Veritas System Recovery に名前が変更されました。
Windows Server 2016 のサポート	Veritas System Recovery 16 では Windows Server 2016 がサポートされるようになりました。Windows Server 16 オペレーティングシステムがあるコンピュータのバックアップとリカバリが可能になりました。 REFS ボリュームの増分バックアップがサポートされます。UEFI および BIOS ベースのコンピュータのシステムドライブをバックアップし、修復することもできます。
SQL Server 2016 のサポート	Veritas System Recovery 16 では SQL Server 2016 がサポートされるようになりました。SQL Server 2016 があるコンピュータのバックアップとリカバリが可能になりました。

Veritas System Recovery 16 でサポートされなくなった機能

[^先頭へ戻る](#)

- Veritas System Recovery 16 では、Windows Mini-setup オプションをサポートしなくなりました。
- Veritas System Recovery 16 は Windows 2003、Windows 2003 R2、Windows Vista および Windows XP のプラットフォームをサポートしなくなりました。

システムの必要条件

[^先頭へ戻る](#)

次の表に、Veritas System Recovery 16 が正しく機能するために必要なシステム必要条件を示します。

表: システムの最小必要条件

コンポーネント	最小必要条件
オペレーティングシステム	互換性があるオペレーティングシステム、プラットフォーム、アプリケーションのリストは、次の URL で参照できます。 https://www.veritas.com/support/en_US/search-results.html?keyword=V-306-17*
RAM	次のリストは、Veritas System Recovery の各コンポーネントのメモリ必要条件を示しています。 <ul style="list-style-type: none">▪ Veritas System Recovery Agent: 512 MB▪ Veritas System Recovery ユーザーインターフェースと Recovery Point Browser: 512 MB▪ Veritas System Recovery Disk: 1.5 GB (専用)▪ LightsOut Restore: 1.5 GB
利用可能なハードディスク容量	次のリストは、Veritas System Recovery とその他の項目のハードディスク容量の必要条件を示しています。 <ul style="list-style-type: none">▪ 製品全体をインストールする場合: すべてのインストールにはおよそ 1 GB が必要です (選択した製品の言語によって異なる)。▪ リカバリポイント: リカバリポイントを保管するために、ローカルハードディスクまたはネットワークサーバーに十分なハードディスク容量が必要になります。 リカバリポイントのサイズは、バックアップしたデータ量と保管するリカバリポイントのタイプによって異なります。▪ LightsOut Restore: 2 GB
DVD-ROM ドライブまたは USB ドライブ	ドライブは、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) と BIOS ベースのコンピュータからの起動ドライブとして使うことができます必要があります。

コンポーネント	最小必要条件
ソフトウェア	<p>Veritas System Recovery をインストールし、使用するには、次の Microsoft .Net Framework バージョンが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Microsoft .NET Framework 4.5.2 以降: Veritas System Recovery を実行し、使用するために必要です。 <p>メモ: 必須の .NET Framework バージョンがまだインストールされていない場合は、Veritas System Recovery インストールプログラムによって自動的にインストールされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ ▪ Microsoft Visual C++ 2010 x64 再頒布可能パッケージ ▪ Microsoft Visual C++ 2012 再頒布可能パッケージ <ul style="list-style-type: none"> ▪ Veritas System Recovery インストーラは .NET 4.5.2 を次のプラットフォームにインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ Windows 7 SP1 (x86 と x64) 以上 ▪ Windows Server 2008 R2 SP1 (x64) 以上 ▪ Windows Server 2008 SP2 (x86 と x64) 以上 <p>メモ: デフォルトでは、Windows 10/Windows Server 2016 オペレーティングシステムは .Net Framework 4.6 とともにインストールされます。</p>

インストール

[^先頭へ戻る](#)

- Veritas System Recovery 16 以降では、Veritas System Recovery をインストールすると Veritas System Recovery Disk 作成パッケージがデフォルトにより配備されます。
- コンピュータのメインメモリをグラフィックスカードなどの他のデバイスと共有すると、Veritas System Recovery 16 の機能を使うためのメインメモリの最小要件を、お使いのコンピュータが満たさなくなることがあります。コンピュータのメインメモリの容量が、Veritas System Recovery 16 で必要とされる最小限の容量しかない場合は、メインメモリを共有しないでください。

Veritas System Recovery Disk のメインメモリの最小要件は 512 MB です。このメインメモリ全体の容量は共有しないで、Veritas System Recovery Disk 専用を使用する必要があります。メインメモリを Veritas System Recovery Disk の専用でなく共有して使用すると、Veritas System Recovery Disk を使用してリカバリポイントを復元する場合や他のタスクを実行する場合に、メモリが不足することがあります。

システムの最小必要条件について詳しくは、『Veritas System Recovery 16 ユーザーズガイド』を参照してください。

- Microsoft BitLocker ドライブ暗号化を使ってドライブのデータのセキュリティを保護している場合は、次の点を考慮します。
 - BitLocker で暗号化されたドライブのロックを解除し、Veritas System Recovery 16 を使ってバックアップできます。その後、Veritas System Recovery Disk (または Veritas System Recovery Disk のカスタマイズされたバージョン) を使って修復できます。

BitLocker 暗号化されたドライブを修復した後は BitLocker が解除されているため、復元後に再度 BitLocker を設定する必要があります。
 - (BitLocker を使う主な理由である) ドライブ上のデータのセキュリティを保護する必要がある場合は、データが含まれるリカバリポイントを暗号化してデータのセキュリティを保護することができます。
 - 以前に BitLocker 暗号化されたドライブのデータを含むリカバリポイントを新しいドライブへ復元する場合は、ブートパーティションとシステムパーティションの両方のリカバリポイントが必要です。

最初にブートパーティションを復元し、次にシステムパーティションを復元する必要があります。コンピュータが正しく起動するように、ブート構成データベース (BCD) を更新します。
- Veritas System Recovery 16 は、GRUB ブートローダーを使っているコンピュータをサポートしません。
- Veritas System Recovery 16 は、Fedora Core3 Ext2/Ext3 または GRUB 2 ブートマネージャを使っているコンピュータをサポートしません。
- Veritas System Recovery 16 のすべてのインストールには最大 700 MB が必要です (選択した製品の言語によって異なる)。システムドライブ (通常は C:) のディスク領域が少なく、Veritas System Recovery 16 を代替ドライブにインストールすることを選択した場合でも、システムドライブには約 30 MB のディスク領域が必要です。システムドライブのディスク領域が非常に少ない場合は (100 MB 未満)、Veritas System Recovery 16 をインストールする前にまず領域を解放してください。
- Veritas System Recovery 16 のインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されます。コンピュータの再起動は、システムドライバ `vtrack.sys`、`SSRFsF.sys`、`genericmount.sys` をインストールしてアクティブ化するために必要です。

アップグレード

[^先頭へ戻る](#)

Veritas System Recovery 16 にアップグレードすると、次回の定時実行時の最初のバックアップは完全バックアップになります。

アンインストール

[^先頭へ戻る](#)

- Veritas System Recovery 16 をアンインストールしても、LiveUpdate はコンピュータ上にインストールされたままです。LiveUpdate をアンインストールする場合は、使用するオペレーティングシステムのマニュアルで、アプリケーションの削除方法を参照してください。
- Veritas System Recovery 16 をアンインストールすると、`capicom.dll` ファイルがシステムディレクトリに残ることがあります。capicom は、すべての Veritas 製品で LiveUpdate を実行するために使用される共有 .dll ファイルです。コ

ンピュータ上に複数の Veritas 製品が存在する場合や、ファイルが必要かどうか不明な場合は、このファイルをそのまま残しておくことができます。または、このファイルを使用しないことがわかっている場合は、削除することもできます。

- この製品の以前のバージョンをアンインストールすると、仮想ボリュームドライブで問題が発生することがあります。Veritas System Recovery 16 をアンインストールしてから、再インストールしてください。Veritas System Recovery 16 をアンインストールして再インストールしても問題が解決しない場合は、製品のレジストリエントリの修正方法について、Veritas 社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

バックアップ先とオフサイトコピー

[^先頭へ戻る](#)

- ネットワーク上の場所をバックアップ先として使う場合、有効なネットワークユーザー名とパスワードが提供されていることを確認します。Veritas System Recovery 16 は、有効なリカバリポイントの存在を確認するために頻繁にバックアップ先にアクセスします。ネットワークアカウントがドメイン内にある場合は、一定の回数以上ログオン試行に失敗すると、一般的なセキュリティ機能によってアカウントがロックされます。ログオン資格情報が有効でない場合は、Veritas System Recovery 16 がバックアップ先へのアクセス試行に複数回失敗すると、ネットワークアカウントがロックされる可能性があります。
- Veritas System Recovery 16 は、CD/DVD ドライブへの書き込みをサポートしません。
- Windows では、Linux Samba 共有にリカバリポイントを保存する際に、ハードディスク領域が不十分であると誤って報告される場合があります。この問題を解決するには、Windows で空き容量が正しく認識されていることを確認してください。

Veritas System Recovery Disk

[^先頭へ戻る](#)

- USB デバイス上の Veritas System Recovery Disk を使って UEFI ベースのコンピュータを起動できるようになりました。
- Veritas System Recovery Disk を作成するときに次のエラーが表示される場合があります。

```
file:¥¥windows¥system32¥winload.exe status: 0xc0000001 The selected entry could not be loaded because the application is missing or corrupted.
```

このエラーは、オペレーティングシステムが FAT32 でフォーマットされたドライブ上に存在する場合に発生することがわかっています。

この問題を解決するには、NTFS 形式でフォーマットされ、Veritas System Recovery Disk の .iso ファイルに含まれるおよそ 400 MB から 600 MB (使用言語によって異なる) の一時プログラムファイルをホストするのに十分なディスク領域を持つセカンダリドライブを参照するよう、%TEMP% を再設定します。その後、Veritas System Recovery Disk を再作成します。

- USB 上にある Veritas System Recovery Disk は、次のディスクやドライブではサポートされていません。
 - FAT (FAT16)、exFAT、REFS フォーマット済みのドライブ。
 - ダイナミックディスク
 - 隠しボリューム (ドライブ文字が USB ボリュームに割り当てられていない)

- USB が書き込み保護されている
 - USB がディスクレベルまたはボリュームレベルで暗号化ソフトウェア (BitLocker、TrueCrypt、SEP など) を使用して保護されている
 - 拡張パーティション上の USB ドライブ
 - USB ディスクが GPT レイアウトでフォーマットされている
 - U3 USB デバイス
 - 2TB より大きいネイティブ 4K ディスク
- リカバリポイントがネットワーク上の場所に保存されている場合は、USB ドライブ上の Veritas System Recovery Disk を使って遅延復元を実行できません。
- Veritas System Recovery Disk の作成が失敗または停止すると、リカバリディスクの作成プロセスが停止します。場合によっては、一部のファイルが一時的な場所 (フォルダ名: SymSrdTemp) にマウントされたままになり削除できません。WimCleaner.exe ユーティリティを使うと、マウントされたシステムをファイルのマウント解除し、一時フォルダ (SymSrdTemp) を削除できます。Veritas System Recovery には 32 ビットバージョンの WimCleaner.exe ユーティリティが用意されています。ユーティリティの場所: <VSRInstallPath>\Utility\WimCleaner.exe。ユーティリティを実行するには、exe ファイルをダブルクリックするか、コマンドプロンプトを使います。

LightsOut Restore

[^先頭へ戻る](#)

- LightsOut Restore を設定すると、Veritas Recovery Environment がシステムパーティション上のファイルシステムに直接インストールされ (この場所は変更できません)、Veritas Recovery Environment のブートオプションが Windows ブートメニューに追加されます。
- LightsOut Restore は、BitLocker 暗号化されたドライブ上では機能しません。そのため、システムドライブに BitLock を設定すると、LightsOut Restore を使用してそのドライブを修復することができません。
- LightsOut Restore を使ってコンピュータをブートできない場合は、オペレーティングシステムが FAT32 でフォーマットされたドライブ上に常駐していることが原因の可能性あります。

この問題を解決するには、NTFS でフォーマットされたセカンダリドライブをポイントするように %TEMP% を再設定します。その後、カスタム Veritas System Recovery Disk を再作成します。

Active Directory のサポート

[^先頭へ戻る](#)

- ソフトウェアは、46 バイトのデータを SPN (サービスプリンシパル名) として基本スキーマのコンピュータオブジェクトに追加します。この属性は、エージェントがインストールされているドメインのすべてのコンピュータに追加されます。
- アプリケーションには、すべてまたは一部のレプリカに更新内容を複製するためのネットワークトラフィックの特別な要件はありません。
- ソフトウェアは、基本スキーマからコンピュータオブジェクトを使用して、SPN を属性としてオブジェクトに追加します。これは、ソフトウェアがディレクトリから読み込む属性です。

リモート管理

[^先頭へ戻る](#)

- リモートマシンで [簡易ファイルの共有を使用する] と [ファイルとプリンタの共有] が無効な場合は、Veritas System Recovery 16 Agent をリモートマシンに配備できません。 [簡易ファイルの共有を使用する] と [ファイルとプリンタの共有] を有効にする方法について詳しくは、『Veritas System Recovery 16 ユーザーズガイド』を参照してください。

- 2 台目のコンピュータを管理しようとする、再接続エラーが表示される場合があります。

この問題を解決するには、Windows ファイアウォールを使用してソースとターゲットの両方のコンピュータ上で TCP ポート 135 を開いてから、接続を再試行します。

- 2 台目のコンピュータを管理しようとする、再接続エラーが表示される場合があります。このエラーメッセージは、製品のユーザーインターフェースのステータスバーに表示されます。

<リモートコンピュータ名/IP アドレス> 上のエージェントに接続しています。この操作を実行する十分な権限がありません。

このエラーは、分散 COM (DCOM) がコンピュータで無効になっているために発生している可能性があります。

DCOM を有効にする方法

1. Windows のスタートメニューで [実行] をクリックします。
2. 「dcomcnfg.exe」と入力して、Enter キーを押します。
3. 左側のツリーで、 [コンポーネントサービス]、 [コンピュータ] の順にダブルクリックします。
4. [マイコンピューター] を右クリックして、 [プロパティ] を選択します。
5. [既定のプロパティ] タブをクリックし、 [このコンピュータ上で分散 COM を有効にする] チェックボックスにチェックマークを付けます。
6. [OK] をクリックして設定を保存します。

Restore Anyware

[^先頭へ戻る](#)

修復環境でコンピュータのリカバリポイントを復元するときには、 [Restore Anyware] オプションはデフォルトで選択されません。リカバリ環境を実行する同一コンピュータのリカバリポイントをリストアする場合には、 [Restore Anyware] オプションの選択を手動で解除する必要があります。

既知の問題

[^先頭へ戻る](#)

- Veritas System Recovery 16 は WinPE の制限により、所要時間が 72 時間を超える Veritas System Recovery Disk を使用したバックアップまたは復元をサポートしていません。

バックアップと復元を行うシステムボリュームを 16 TB 以下にすることを推奨します。バックアップまたは復元に 72 時間以上かかる場合は、Veritas System Recovery Disk だけを使用してシステムボリュームを復元し、16 TB を超えるボリュームについてはその後 Veritas System Recovery 16 で処理することを推奨します。

- VMware ESXi への物理環境から仮想環境への変換 (P2V、P2V to VMDK) は Veritas System Recovery の 2 TB 以上のボリュームに対してサポートされていません。この問題について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000109454>

- Veritas System Recovery 16 では、GPT と MBR ディスクを組み合わせたシステムボリュームを使用している環境で、SV2i ファイルを使用した、容量が 2 TB を超える VHDX の物理環境から仮想環境への (P2V) 変換をサポートしていません。この問題について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000125453>

- リカバリポイントのファイル名に特殊文字または各国化された文字が含まれている場合、Amazon S3 オフサイトコピーへのアップロードは失敗します。この問題について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000107943>

- 複数のオペレーティングシステムを実装するコンピュータを所有する場合、あるオペレーティングシステムで作成された LightsOut Restore が他のオペレーティングシステムによって検出され、互換性の問題が生じる場合があります。この問題について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000107706>

- [リカバリポイント破損の無視] オプションでは、復元中のバックアップの破損した部分は除外されます。無視された部分には、ドライブのメタデータ情報とシステムファイルが含まれることがあります。このシナリオでドライブのメタデータが破損している場合はアクセスできなくなり、システムファイルが破損している場合は復元後にコンピュータが再起動しなくなります。

リカバリポイントが高圧縮技術で圧縮され、それが破損している場合は、v2i ファイル構造の制限により、[イメージ破損の無視(Ignore Image corruption)] オプションを指定した場合に復元が成功する確率は低くなります。

- Windows 7 から Windows 10 オペレーティングシステムにアップグレードするには、[インストールファイルのみを削除] オプションにチェックマークを付けて Veritas System Recovery を一度アンインストールする必要があります。Windows 10 へのアップグレードが完了したら、再び Veritas System Recovery をインストールします。

- Veritas System Recovery 16 をインストールした後は、Hyper-V 内でホストされる Windows 10 UEFI コンピュータをブートすることはできません (ブート失敗)。

メモ: この問題を回避するために、すべての Windows 更新プログラムを確実にインストールします。

- Windows 7 から Windows 10 オペレーティングシステムにアップグレードした後に、Veritas System Recovery 16 を修復しようとする、オペレーティングシステムは回復モードでブートします。

- ESXi ホストのパスワードに [@] の文字が含まれると、x64 プラットフォームの ESXi Server に仮想変換できません。Veritas System Recovery は VMware VDDK を使って仮想変換します。VMware VDDK はパスワードに含まれる [@] という文字を解析できません。この問題について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000025285>

メモ: x86 プラットフォームではこの問題は起きません。

- iSCSI ボリュームを表示する場合に、Veritas リカバリ環境で、iSCSI ターゲットに再接続する必要があります。iSCSI ターゲットに再接続するにはコマンドプロンプトを開き、リストに表示された順序で次のコマンドを実行します。

- net start msiscsi
- iscsicli QAddTargetPortal <ポータル IP アドレス>
- iscsicli ListTargets

- `iscsicli QloginTarget <ターゲット iqn>`

<ターゲット iqn> を iSCSI ターゲットの iqn に置換します。

- UEFI ベースのコンピュータのリカバリポイントは VHDX 形式 (ESXi 5.0 以降) に変換できます。UEFI ベースのコンピュータのリカバリポイントは、VMware Workstation ディスクまたは VHD 形式には変換できません。これらの仮想形式は UEFI 技術をサポートしません。

- 新しいバージョンの Veritas System Recovery の管理

以前のバージョンの Veritas System Recovery を使用して新しいバージョンを管理することはできません。たとえば、Veritas System Recovery 16 は Symantec System Recovery 2013 R2 を使用して管理できません。

- Veritas System Recovery 16 のバックアップパフォーマンス

Veritas System Recovery 16 は、多くのユーザーに最適なパフォーマンスを提供するように設定されています。高度に最適化されたバックアップ時間帯を必要とする特定の状況を除き、デフォルトのパフォーマンス設定を推奨しています。制限された状況でパフォーマンスチューニングを行う場合は、パフォーマンスレジストリキーに関する情報が記載された次の TechNote にアクセスします。

<http://www.veritas.com/docs/000014242>

設定を変更するとパフォーマンスが向上する場合があります。通常、パフォーマンス設定の変更による効果が最も顕著に現れるのは、リカバリポイント (V2i ファイル) をネットワーク共有に保存したときです。2 番目の内部ハードディスクドライブまたは外部の USB や FireWire ハードディスクドライブにリカバリポイントを保存するときは、通常はデフォルトの設定が最適です。

- Veritas System Recovery 16 では、単一 USB ディスクに複数の Veritas System Recovery Disk を作成できません。たとえば、同じ USB ドライブに 32 ビットと 64 ビットのリカバリディスクは作成できません。
- Veritas System Recovery 16 は、ソリッドステートドライブ (SSD) を装備した UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) ベースのコンピュータで wimboot パーティションを含む Windows 8.1 Update をサポートしません。
- Veritas System Recovery 16 は 4K ネイティブディスクで作成されるダイナミックボリュームをサポートしません。
- マイクロソフト社のガイドラインで強化されたサーバーで Veritas System Recovery 16 を実行できない場合は、次の操作をします。

- Veritas System Recovery 16 サービスを実行している場合は、[サービス] 管理ツールから停止するか、またはコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して停止します。

```
' net stop "Veritas System Recovery"
```

- コマンドプロンプトを開いて、Veritas System Recovery 16 のインストールパスのルート (デフォルトは C:\Program Files\Veritas\Veritas System Recovery) に移動します。

- インストールフォルダから、コマンドプロンプトでバッチファイル名 [fixinstall.bat] を入力して実行します。

- [サービス] 管理ツールを使用するか、またはコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、Veritas System Recovery 16 サービスを開始します。

```
' net start "Veritas System Recovery"
```

- Veritas System Recovery 16 は、暗号化ボリューム (HP 暗号化ボリュームなど) の復元をサポートしません。バックアップ前にボリュームの暗号化を解除する必要があります。

- Veritas System Recovery 16 は、デュアルブート環境またはブートストラップ環境をサポートしません。パーティションの boot.ini ファイルを手動で編集する場合は、次の操作をします。
 - リカバリポイントの復元完了後に再起動するためのオプションは、選択しないようにします。
 - リカバリポイントを使用してコンピュータの復元を行います。
 - Veritas System Recovery Disk で、[ユーティリティ] > [boot.ini の編集] の順に選択します。
 - 必要な変更を行った後、コンピュータを再起動します。
- ドメインコントローラが設定されたハードドライブが [ハードディスクドライブをコピー] オプションを使用して新しいディスクにコピーされている場合、ユーザーはドメインにログオンできません。ドメインコントローラが新しいハードディスク署名を検出し、ドメインコントローラ自体を分離するためにこの問題が発生します。
- 共有ファイルや共有フォルダを復元しても、共有権限は復元されません。共有権限を手動で再設定する必要があります。
- ReadyBoost 用に設定されたボリュームを復元しても、ReadyBoost 設定は復元されません。ボリュームを復元した後、手動で ReadyBoost を再設定する必要があります。
- ReadyBoost 専用ボリュームのバックアップに失敗します。ボリュームをバックアップする場合には、ボリュームが ReadyBoost 専用でないことを確認します。
- 英語と日本語の環境が同じネットワーク上に混在している場合、日本語のコンピュータ名がコンソールで文字化けする場合があります。
- バックアップジョブで新しいリカバリポイントセットを開始するよう設定する場合には、バックアップジョブで増分リカバリポイントを作成するようスケジュールされているタイミングで、新しいジョブが開始するようスケジュールされていないことを確認してください。このように設定されている場合、新しいリカバリポイントセットを作成するようスケジュールされたバックアップジョブが、予想どおりに実行されない可能性があります。
- Veritas System Recovery 16 で、Microsoft DISKPART ユーティリティを使ってダイナミックボリュームを作成、削除します。

Granular Restore Option

[^先頭へ戻る](#)

Granular Restore Option が Veritas System Recovery 16 に含まれるようになりました。

Granular Restore Option は、Outlook 2010 で利用可能なユーザーのアーカイブメールボックスをサポートします。

Exchange サーバーをバックアップするときには、ドライブに Exchange がインストールされており、Exchange データベースがバックアップジョブの一部であることを確認します。

一般的な問題

[^先頭へ戻る](#)

- Granular Restore Option のすべての機能を利用するために、Granular Restore Option コンソールを実行するサーバーに Microsoft Outlook 2007 または 2010 をインストールすることを推奨します。Outlook 2013 を使う場合には、Veritas System Recovery 16 は Outlook 2013 がインストール済みの場合に GEO に限定的なサポートを提供します。Veritas System Recovery 16 は Exchange 2013 (Granular Restore Option のフルサポート) をサポートします。

Granular Restore Option の場合には、Outlook 2013 がインストール済みの場合に、電子メールメッセージのみを復元できます。

- ファイルのロード中にネットワークの切断が発生した場合、ネットワークに保存されているリカバリポイントセット (.sv2i) を開くときに、すべての電子メールメッセージが表示されるとは限りません。この問題の回避方法は、ファイルを再ロードすることです。
- Outlook が動作していないときに修復したメッセージの転送を試みると、メッセージを閉じる際に保存を促すメッセージが表示されます。メッセージの保存を選択すると、メッセージは下書きフォルダではなく受信ボックスに保存されます。

法的通知と登録商標

[^先頭へ戻る](#)

Copyright © 2017 Veritas Technologies LLC.

All rights reserved.

Veritas および Veritas ロゴは、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、FAR 52.227-19 [Commercial Computer Software - Restricted Rights]、DFARS 227.7202 [Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation]、その他の後継規則の規定により制限権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示、開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。